

2016 年度
専門学校サンテクノカレッジ
学校関係者評価 報告書

評価対象期間：2016 年 4 月 1 日～2017 年 3 月 31 日

2017 年 10 月
学校関係者評価委員会

目次

I	学校関係者評価の概要と実施状況	1
	1. 学校関係者評価の目的	
	2. 学校関係者評価委員名簿	
	3. 学校関係者評価委員会の実施状況	
II	学校関係者評価委員会 評価結果報告	2
	1. 教育理念・目的・育成人材像	2
	2. 学校運営	3
	3. 教育活動	4
	4. 学修成果	4
	5. 学生支援	5
	6. 教育環境	6
	7. 学生の受入れ募集	7
	8. 財務	7
	9. 法令等の遵守	8
	10. 社会貢献・地域貢献	8

I 学校関係者評価の概要と実施状況

1. 学校関係者評価の目的

専門学校サンテクノカレッジの学校関係者評価の目的は、以下の通りである。

- ①自己評価の評価結果について、学校外の関係者による評価を行い、自己評価結果の客観性・透明性を高めること。
- ②本校の専門分野の関係団体、専門分野の関係業界、地元自治体、卒業生など、本校と密接に関係する者の理解促進や連携協力による学校運営の改善を図ること。

2. 学校関係者評価委員名簿

区分	氏名	所属等
関係団体	※泊 克洋	一般社団法人 山梨県情報通信業協会 事務局
関係業界	小野 俊治	株式会社ジインズ 取締役
	勝俣 義也	株式会社エスピーシー 顧問
地元自治体	内藤 博文	甲斐市 企画政策部長
卒業生	井上 満邦	サンテクノカレッジ同窓会 副会長

※ 委員長

3. 学校関係者評価委員会の実施状況

(1) 第1回委員会

- ・日時：2017年9月12日（火）10:00～12:20
- ・場所：専門学校サンテクノカレッジ 会議室

(2) 第2回委員会

- ・書面による学校関係者評価報告書の内容確認および承認。

II 学校関係者評価委員会 評価結果報告

1. 教育理念・目的・育成人材像（評価結果／適切：4名、不適切：1名）

ー委員コメントー

【評価できる点】

- 教育理念・目的・育成人材についての考え方は、ホームページやパンフレットで明確に表記されている。
- 1991年の開校以来、情報化の進展に合わせて、的確に対応してきた歩みは、素晴らしいことだと考える。今後も、建学の精神に沿って、進んでいただきたい。
- 理念や教育目標は、学校パンフレット、ホームページに記載されている。
- 一部の学科では、業界関係者からニーズを確認している。
- Webで表示されている教育理念は、具体的で分かり易く表現していて好感が持てる。
教育理念が文章化されているなら、先ず冒頭にあるいは、どこか別の位置でそのままの内容で表示し、その後にWebで表記している文章につなげることで十分かと思う。
- 非常に高いハードルを自ら設けている点が評価できる。また、それぞれの項目に、今後の課題が示されているので、今後の課題についても比較的明確になっている。

【改善すべき点】

- 内部の経験者が多く少人数の体制だと、特に文章にしなくても阿吽の呼吸で物事が進んでいくが、都合の良い方に解釈されていく危険性があるので、やはり文書化して基本を押さえていくことは必要である。特に外部に対しては、全ての人に理解してもらうことは不可能となるので、発信側としての対応はしておくべきである。
- さまざまな取り組みをしてきた歩みの歴史が、まとまっていないことについて、意外であった。今後は情報を集約し、共有していただきたい。
- 本報告書の「学校の現況」は記述が少なく、評価者にとり学校の規模、現況がつかみにくい。職員数、学生数等の記述を行うとともに、理念設定の背景、学校のあるべき姿などアピールすべき点などを加えた方がよい。
- 教育目標の技術者像は、抽象的であり一般的事項の記載でしかない。具体的な記載が望まれる。
- 社会のニーズをとらえる活動が不明である、ニーズ把握のための、項目、時期、頻度等作成することが望まれる。
- ホームページでは各学科の教科の説明はあるが、求められる人材に対する育成方針などを記載した方がよい。
- 報告書全体を通して、職員、教員に対するプロセス・結果の共有についての記述が少ない。
- 教育理念は、教職員が教育を行う上での柱となるものと理解している。従って、教職員がより積極的に自ら探し求め存在を問いただすべきものとする。
- 情報系の教育機関では入学時と卒業時で社会情勢が変化していることが考えられ、社会

や地域産業界のニーズを取り入れるのは非常に困難である。そのような中で、中長期の事業計画や将来構想を立てていかねばならないので、大きく捉えて学生や地域社会に何を提供するのかといった点を踏まえて検討していかねばならないと思う。

2. 学校運営（評価結果 / 適切：5名、不適切：0名）

－委員コメント－

【評価できる点】

- 少子化の進む今、対象である学生の減少は否めないところであるが、一方、情報化の急速な進展の中で、社会のニーズに迅速に対応し、デザイン分野の導入などの積極的な姿勢は評価できる。
- 少人数の体制なので、臨機応変に物事に対応できる点は評価できる。
- 理事会、評議員会は、議事録を作成し結果を明確にしておくことは大変良いことである。
- 単年度計画が策定されている。
- プロセス重視の評価になっているが、少子化が深刻に進む中、中期計画等先を見通しにくい現状、問題点、改善すべき点はきちんと理解し、整理されていると思う。
- 全体的に自己評価が低いように感じられるが、それぞれに対策が記されているので問題ない。

【改善すべき点】

- 臨機応変に対応できる分、基本的な部分が曖昧になり、担当者泣かせの状況に陥りやすくなると思われる。規則あるいは内規として文書化しておくことで個人的な考え方で判断することがなくなり、対応方法が明確になる。
- 四半世紀の歴史のある貴校であり、しっかりとした運営方針、事業計画を持って、学校運営にあたっていただきたい。
- 運営目的は理念・方針に基づき作成することが望まれる。
- 法人としての規則、遵守事項以外に、学校として理念に基づく社訓のようなものがあれば文書化した方がよい。
- 記録は必要であるが、何のために記録を残すのか（利用方法）を、明確に指摘する必要がある。
- 教職員のコア・コンピタンスは何か？学科ごとの作成と、それに基づくキャリアパス、コンピテンシー辞書などを参考にしたらどうか。
- コンプライアンス体制、情報公開、情報管理などは、見直しのルールを作成し、組織にあった規模で行うことが望ましい。
- 前項では理念に関する中長期事業計画の立案を問題としたが、ここでは学校運営に関する中期事業計画ということで、運営基盤＝経済基盤となることも否めない。これには同窓会役員の立場からも協力が必要であると感じる。

3. 教育活動（評価結果／適切：5名、不適切：0名）

－委員コメント－

【評価できる点】

- 一貫した教育理念で対応できていることは大変良いことである。細かな打合せの中で、教職員間で情報の共有は取れていると思われる。
- 情報関連の学校として専門的なカリキュラムが実施されていて、評価を得ていると考える。また、即戦力としての教育も進められ、その中で、資格取得に取り組むなどの成果を上げている。
- 教育理念「あなたにしかできない技術力・デザイン力を身につけてほしい」が設定されている。
- 学科ごとのシラバスが設定され、ホームページで公開されている。
- 一部の学科では、業界のアドバイスを受け、カリキュラムの見直しを行っている。
- 情報処理技術者試験、特に専門的な総合知識を必要とする応用情報技術者試験は非常に難関であり、この合格者を複数出した事は称賛に値する。背景には、教職員の方の努力だけではなかったと思う。
- 教科内容については、過去の話だが卒業生として素晴らしいと確信している。

【改善すべき点】

- IT技術の対応に合わせたドキュメントの作成は、毎年見直しが必要となり、多大な時間と労力が必要になると思われる。ただし、ドキュメントがあることにより、すべきことが明確になることは間違いない。情報教育の体系図などのドキュメントが存在していた等、基本となる部分の洗い出しだけでも良いのではないか。
- 外部関係者の評価の取り入れについては、今回のこの委員会を機会として、積極的な取り組みを期待する。
- 業界ニーズと教育到達レベルの整合性の検証は？
- 3-4で、資格試験の合格率が非常に高い成果と記載されているが、比較対象の具体性が無いように思う。また、高い合格率は授業のみで達成したものなのか、それとも授業および教職員の指導によるものなのか、これらの要因が他校にないサンテクノカレッジの特徴的なものになっている事を記載してもよいのではないか。
- 学生や保護者のニーズを取り入れるという考えもあるが、学校側が専門家の立場から必要と思われる教科を設定していく方が、効果が上がると思う。一見必要と思われない一般教養などの教科も、広い視野で見ると絶対に必要となるものなので、妥協してはならない点を見極めて教科を設定してほしい。

4. 学修成果（評価結果／適切：4名、不適切：1名）

－委員コメント－

【評価できる点】

- 個別指導の対応等、学生一人一人に対する対応は素晴らしいと思う。
- 資格取得率は、卒業後の進路に大きく影響するため、この向上が図られている点は評価できる。それは、就職内定率 95.7%につながっているのではないか。
- 各項目における具体的な施策がなされている。
- 学校側の非常な努力により、高い内定率であることは評価できる。
- 専門教育では、資格取得は非常に判り易い判断基準だと思う。

【改善すべき点】

- 卒業生全体のキャリア形成の効果を把握することは、不可能だと思う。年齢の近い人の話は受け入れやすいので、卒業生に依頼して自分の経験談を話してもらってはどうか。
- 卒業生の卒業後の状況、活躍については、学校でも把握しているとのことだが、積極的に協力してもらい、内定の底上げに生かしていただきたい。
- この項全体に言えることであるが、実施している項目をどのようにして選んだのか、成果指標の設定、見直しの結果・改善等 PDCA に沿った記述を行うことが望ましい。
- 4-2 で、高い情報技術者試験の合格者をうたっているが、一過性のものなのか、年々高い合格率を伸ばしているのかが明確に記載できれば、学生及び教職員の方々の客観的な指標になると思われる。また、同じ事が就職内定率にも言えるかと思われる。
- 卒業生も必要に応じて再度入学し部分的にでも学べるように、聴講生制度を検討しても良いと思う。

5. 学生支援（評価結果／適切：5名、不適切：0名）

－委員コメント－

【評価できる点】

- 学生一人一人への対応はできている。学生が卒業後も学校を訪れるという環境は、大変良いことだと思う。
- 経済的、健康管理、課外活動の支援、保護者との連携など自己評価でも高い評価をしている。また、高校などとの連携や社会人のニーズを踏まえた教育環境の整備など、評価できる点だと考える。
- 専門学校では、大学以上に就職に敏感になると思う。卒業生としてかかわってきたが、本校は企業情報の収集や就職先の斡旋等に、きめ細かいサービスを行っていると感じている。

【改善すべき点】

- 先生が何とかしてくれる、親が何とかしてくれる、という対応ではなく、学生が自分で考えていく力を身につけられるような指導をお願いしたい。
- 少子化による学生の減少などがみられる現在、きめ細かなサービス（学生支援）に努める必要があると考える。

- 多くの施策を行っているが、学生、父兄のニーズをどのように取り込んでいるのか、また、他校と比較してどうなのかを把握したうえで、施策を行えば、効率化に役立つのではないか。
- 卒業生への支援は、受け身的になっていないか、全教職員の支援を述べているが具体性が乏しいように感じる。同窓会だけでなく、何らかの支援を行っているかと思われる。その記述がもう少し欲しいと感じる。
- 学生が研究に没頭するあまり、長時間の研究学習に対する健康管理等は、年に一度の健康管理では把握できないと認識している。このあたりの対策等の具体性がないように感じる。
- 学生へのアパートやアルバイトの斡旋などに協力できそうである。同窓会役員としても学生の役に立つような運営を心がけたい。

6. 教育環境（評価結果／適切：5名、不適切：0名）

－委員コメント－

【評価できる点】

- 施設設備については、充実していると思う。
- 情報専門学校として、多額の経費のかかる学生ひとり1台のパソコンや情報関連機器の整備を先行させ、十分対応できる環境を作り上げていて評価できる。
- 問題点を的確に把握しており良い。
- 20年近くにわたりかかわっているが、都度建物の維持や改修、器具の更新に心を砕いていると感じる。

【改善すべき点】

- 常に完璧な環境を与えることは教育の中で必要なことだとは思いますが、不足しているところをいかに対応するかを考えることも必要ではないか。
- 地震などの災害の発生が叫ばれている中で、防災に関してハードだけでなく、訓練などのソフト面での取り組みを進めてほしい。また、行政などとの連携も必要ではないか。
- 教育環境が良いに越したことはないが、財政との兼ね合いとなる。同一規模の他校をベンチマークすることにより、自校の置かれている位置を確認し、環境整備を実行していくことが望まれる。
- コンピュータ関連技術がめまぐるしく発展している今日、購入図書の陳腐化が早く、ここに費用を割くのは確かに問題かと考える。むしろ、卒論のアーカイブ的な活用場として提供した方がよいと思える。
- どうしても最新機材をそろえるのは難しいだろう。また図書室の完備についても、情報書は陳腐化が激しいので、絶対に必要な書籍は原則学生が個々に購入し、基礎学問や必要と思われる一般教養に関する図書を中心に所蔵することを検討しても良いと思う。（寄贈にも協力できます。）

7. 学生の受入れ募集（評価結果／適切：5名、不適切：0名）

－委員コメント－

【評価できる点】

- 学生募集に関しては、非常に細かい部分まで活動していると思う。
- 学生募集については、学校パンフレットのほか、Webサイト、民間情報サイト、ラジオCM、オープンキャンパスや学校訪問など、さまざまな取り組みを実施していることは評価できる。
- 学生募集の個々の取り組みに関し、個別に効果を把握している。
- 少子化の中、学校側の多大な努力が図られていて、非常に良いと思う。
- 3年に一度のパンフレット更新、高校生を対象としたガイダンスなど、なすべきことはしていると感じる。

【改善すべき点】

- 学校の知名度を上げることで、進学予定者の候補に挙がる可能性は広がると思われる。
- 活動の成果指標については、個々の取り組み結果を分析し、結果になるべく結びつく指標を設定することが望まれる。
- 教育成果では、事項の明示、プロセス結果なども公開した方がよい。
- 学生募集は財務に直結する事柄なので、なるべく多くの学生を確保したいところではあるが、学生が多くなりすぎ、学校のキャパシティを超えると、教育の質が低下してしまうので、適切な学生数を明確にしておく必要を感じる。

8. 財務（評価結果／適切：5名、不適切：0名）

－委員コメント－

【評価できる点】

- 法に基づき、監査がされていて、正規の評価がされていると考える。
- 財務に関し、工夫して運営がなされている。
- 学校運営の大半を授業料で賄っている現状において、5年ごとの情報機器の入れ替え等、非常に苦しい中で学校運営をしているが、会計監査が的確に行われていることは良いと評価できる。
- 文科省の補助金の活用など、工夫が見られる。

【改善すべき点】

- 学校運営の中でも、中長期的な計画は必要なものだと思う。建物と設備を抱えているので、計画的な設備投資を行っていかなければならないと考える。経営的に難しい時節柄だからこそ、中長期計画の策定が望まれる。

9. 法令等の遵守（評価結果 / 適切：4名・不適切：1名）

－委員コメント－

【評価できる点】

- 今回、学校関係者評価委員会を立ち上げ、自己点検・評価に取り組む姿勢は評価する。
- 法令等の遵守は、適正になされている。
- 問題点を洗い出し、明確化し、具体的な対応策を立てているのは評価できる。
- 個人に帰する権利についての考え方が近年重くなってきているので、対応が難しいと感じるが、学校自らが課題を見つけて自主的に整備していこうという点が見受けられる。

【改善すべき点】

- 個人情報に関して、教職員の意識の中で周知徹底されている点では問題ないが、外部的にはホームページ等に明記しておく必要はあると思う。
- 個人情報保護に関する規定は早急に策定することが必要だと思われる。
- 自己評価は実施を始めたばかりであるが、結果及びその後の改善等、学校全体で共有する仕組みを検討した方がよい。
- 個人情報保護は昨今、非常に重要でコンピュータを学ぶ学生にとっても大切であり、授業等に入れるべきかと思う。

10. 社会貢献・地域貢献（評価結果 / 適切：5名・不適切：0名）

－委員コメント－

【評価できる点】

- キッズプログラミング教室や高校からの依頼によるインターンシップ生の受け入れ、高校教員のプログラミング研修会などのほか、おれおれ詐欺撲滅キャンペーンポスター作製など地元行政との協働の取り組みなど、学校が位置する地域と連携した取り組みは大いに評価できる。
- 少ない人数で、多くの社会貢献に取り組んでいる。
- 10-1の地域貢献は素晴らしい。Webにも公開すべきかと思う。
- 自分が学生であった頃に比べ、格段に地域社会とのつながりを感じる学校になったと思う。

【改善すべき点】

- ボランティア活動について、掲示板を設置しても参加がなかったということであるが、応募の有無にかかわらず、掲示して学生の目に触れることで、たとえ一人でも参加者が出ることによって、少しずつ意識が変わるのではないか。また、平日参加の場合は、公欠扱いを検討することも必要ではないか。
- 学校だけでなく、学生が学校から地域に出て活動することへの支援なども、積極的に取り組んだらどうか。

- IT 関連の取り組みばかりでなく、地域社会の一員としての活動も考慮してはどうか。
- 社会貢献活動に、学生を参加させることが望まれる。
- 在学生のボランティアへの参加と就職との関係があるとか、学校教育の一環として検討している旨の表記があってもよいのではないと思われる。
- 学生のボランティア活動を、単位取得の要件にしても良いと思う。